

☆ p447-機械装置の新たな採用は…伝来の手工業および工場手工業における労働者に疫病的な作用を及ぼす…工場労働者の奴隷状態を嘆じている

○機械装置は、その導入時代および発展時代の恐怖の後に、…労働奴隷を減少させるのではなく、これを究極においては増加させる = 「忌わしい定理」

◎ 「博愛家」(注 226 のダニイ) に対して「経済学は歓呼の声を挙げる-9L」(忌まわしい定理の勝利!?)

☆ p448(注 226)ダニイは、労働奴隷の数の絶対的減少を、機械経営の結果と見なす
この「痴呆症」「寝言」曰く…生産し、消費する罪を負っている階級は減少して、労働を指導し全住民をたすけ慰安し啓蒙する階級は増加する。…そして労働費用の減少、生産物の豊富、消費財の低廉から生ずる全ての恩恵をわがものとする。…人類は天才の最高の創造にまで自己を高め、宗教の神秘的な奥義に徹し、道徳の有益な原則を確立し、自由と権力、服従と正義、義務と人道を保護するための法律を制定する、云々。

☆ p448-①一定の発展度においては、工場諸部門の異常な拡張が、使用労働者数の相対的減少とのみではなく、絶対的減少とも結合されることがありうる。

(例)・3L イギリスの毛糸工場と綿工業…

・p449-13L 木綿工場では…

☆ p450-②(しかし)機械経営自体の成長とともに、結局工場労働者も、彼らによって駆逐された工場手工業労働者、または手工業者よりも多数になり得る。

・p451-11L「従業労働者数の相対的減少は、その絶対的増加と矛盾しない。」

(例示) 500 ポンド (a 不変資本・生産手段 200po + b 可変資本・労働力 300po・人)

→機械経営では a400+b100 に。b の 2/3 は解雇される。→ 1500 ポンド (b は 300 人に)

◎ p452- (以上の記述は)純事実的關係にある程度まで触れておくことにする。理論的説明自体は、まだ及んでいない (→理論的な詳細は「第3巻第7篇 資本の蓄積過程」)

※相対的過剰人口論の展開)

p453-1L ①第一期「特別な利潤」

-7L ②工場制度が一定の普及度と成熟度に達する…「一般的生産条件が創出されるや否や」→制約されるのは「原料と販売市場のみとなる」

→ 10L 外国市場征服と原料生産へ (東インド)→後 2L 国際的分業の創出へ

p454 ※この変革についてはまだこれ以上詳しく論ずべき場合ではない。(第7篇へ)

☆ p456-458 工場制度の巨大な飛躍的な拡張可能性と、その「世界市場への依存性」…

①必然的に熱病的な生産と、それに続く市場の過剰とを産み出し、市場の収縮とともに麻痺状態が現れる。産業の生活は、中位の活況、繁榮、過剰生産、恐慌、停滞の諸時期の一列に転化していく。 *p456-1L

②労働者の就業と…生活状態が受ける不確実さと不安定さとは、この産業循環の周期的変化とともに、あたりまえのものとなる。 *p456-4L

③労働力に代わる改良された機械装置と新たな生産方法の使用における競争が起こされるとともに、さらに労働力の価値以下に労働賃金を強圧的に引き下げることによって、商品を低廉にする努力が行われる一点が、各時期に必ず現れる。 *p456-7L-p458

④労働者の増大は…総資本の増大によって制約される *p458-1L

労働者を駆逐する技術的進歩によって中断される -4L

かくして労働者はたえず反発されては牽引され、あちこちと追い回され、そのたびに新人工の性、年齢、熟練度は、たえず変化する。 -6L

(例)*p458-9L-p459 末まで

- ・工場労働者の運命＝イギリスの木綿工場 1770-1861 年アメリカ南北戦争と綿花飢饉
- ・1862 年から 63 年まで完全な崩壊（＝恐慌）

☆ p460-綿花飢饉の歴史

- ・綿花飢饉は、工場主たちにとっては時を得たもの、またある程度まで有利だった *2L?
- ・小工場主の多くは没落した…全体の 1/3 …断続的な操業…週賃金の低下…出来高賃金の引き下げ… *p460-461
- ・一種の飢餓病の発生…解剖学者が蛙で行うような、価値のない身体での実験が、堂々とやられたのだった。 *p4625L

○耐えがたい悪臭、塵埃（じんあい⇒塵芥じんかい）による気管支炎、咽喉炎、皮膚病、若い売笑婦の増加、云々。 *p462-463

※「周の幽王は、絶世の美女・褒姒（ホウジ）の一笑を買おうとして烽火を上げ、国を失った。このことから男性を引きつけるものは女性の笑みであり、笑みを商売道具にして性を売るので『売笑婦』の言葉ができた」のだそうです。

因みに「売春」は日本でできた雅語だそうです。

※雅語は平安時代を中心とする古典における「正しいことば」、優雅な言葉のこと。

☆ p464- イギリス綿業の最初の 45 年間

- ・1770 年-1815 年は「世界独占の時代」だった。
- ・1815 年-1863 年の 48 年間は「不況と沈滞の 28 年」＋「回復と好況の 20 年」
- 1815 年-1830 年…大陸ヨーロッパと合衆国との競争
- 1833 年以来…アジア市場の拡張が「人種の破壊」によって強行
- ・好況期においてさえ成年男子綿業労働者の状態は…注 245 ※工場労働者の大移住（背景）

※北部では米英戦争（1812 年 - 1814 年）による英国工業製品の途絶で急速な工業化が進展しており、新たな流動的労働力を必要とし、奴隷制とは相容れなかった。

※ 1860 年米大統領選挙では奴隷制の拡大に反対していた共和党のエイブラハム・リンカーンが当選

※ 1861 年から 1865 年にかけて南北戦争